

厚狭の

三年寝太郎

絵 なかはら かせ



むかし、長門の国は厚狭の里にもぐさな若者がいました。毎日、毎日寝てばかりいるので、いつか村じゅうのものに「寝太郎」とよばれ、もの笑いの種にされていました。

父親の庄屋さんは、村一番の金持ちでしたが、一人息子の寝太郎のこととなると、いつも「こまった、こまった」をくり返すだけでした。

その寝太郎が、三年三月を、まるまる寝て暮らしたある日、ひょっこり起き上がると、「お父つあん、すまんが、千石船を

一そう作っちゃくれ」といいます。庄屋さんは、藪から棒の寝太郎のたのみに、目をくるくる舞いさせて驚きましたが、いつの世も変わらぬものは親馬鹿ちゃんりんで、「こまった、こまった」いいながらも、とうとう千石船を作ってやりました。すると、また、寝太郎が、「船いっばいのわらんじを買っちゃくれ」といいます。

庄屋さんは、寝太郎のまっぴらしたといわんばかりの、矢つぎ早やのたのみに、あい変わらず目をばちばちさせ、「こまった、こまった」いいながら、わらんじを村じゅうから買いあつめ、千石船に積んでやりました。すると、またまた、寝太郎は、「ついでじゃけえ、たつしやな舢舨を八人雇っちゃくれ」といいます。

庄屋さんは、まるで狐つきのようになんのためやらわけもわからず、寝太郎の言いなり放題になって、とどのつまり、厚狭川を下って船出する寝太郎の、どこへ行くやもしれない千石船を、ぼんやり見送ってしまった。「ほんに庄屋さまもおかわいそうじゃ、寝太郎が起きたと思うたら、ふらふら海へ迷い出てしまうたわい」「宝船の夢のつづきが、してみようとなつたそじゃろう」「わらんじいっばいの千石船たア、とんだ宝船じゃのう」村人のかげ口は、いろいろでした。

寝太郎が厚狭を船出してから、十日たつても、二十日たつても、いっ



こう音沙汰ありません。庄屋さんの心配もたいへんなら、舢舨たち身内のももびくびくで、村人のあらぬ噂も尾ひれ背びれがついてまぢまぢです。

五、八の四十日たつた日の明け方、ぶらりと寝太郎の千石船が帰ってきました。だいぶ遠くまで航海したよいうすで、大きな白帆もいたんでうす汚れ、舢舨たちもひげぼうぼうで疲れもひとしおに見うけられます。ただ、変わっていないのは、寝太郎ひとり、いそいそと出迎えた庄屋さんに、「お父つあん、迎えるだけ大けな桶を、なんぼでもええええ、急いで作っちゃくれ」といいます。船から下りる早々の、ちんぶんかんぶん、唐人の寝言みたいな、寝太郎のたのみに、庄屋さんは、腹が立つより、無事に帰った子への可愛さが先に立ち、「こまった、こまった」いいながらも、大桶を七つも八つも作ってやりました。すると、また、寝太郎が、「お



父つつあん、そんじよそこらの、手すきの百姓衆に、おどもの手伝いをたのんじょくれ」といいます。庄屋さんは、もう恥も外聞もかなくり捨てる思いで、百姓衆に、頭を下げてまわり、よびあつめてやりました。

込むときは、まっさらだったわらんじが、どれもこれも泥んこの、すりきれわらんじになつてい

寝太郎は、手伝いの百姓衆に、八つの大桶いっばいに、水をはらせてから、舢舨たちが運び帰った積み荷の山にのぼると、「さあ、みんな、この縄をほどいて、かたつぱしから桶ん中へ、放りこんじょくれ」といいます。

手伝いの百姓衆はもとより、寝太郎がなにをしかすかと、集まってきた村人達は、「あッ」と驚いたまま空いた口もふさがらない始末です。さすがに庄屋さんも、いたたまれずに、家の中に隠れてしまいました。

寝太郎のいうなりに藁縄をといて、みんな二度びつくりです。積み

ではありませんか。「ほんやりしちよらん」と、さあ、桶の水につけて泥を洗い落とすんじや。濯いだわらんじは捨ててもええが、残った泥水は大仕事にするんじやぞ。さあさあみんな、洗うて、洗うて」寝太郎の威勢のいい声に、それから三日三晩、大変な作業がつづきました。「どひょうしもないことこのう。寝太郎が起きたばっかしに、ありようみい底抜けじや」村人たちは、庄屋さんに同情したり、寝太郎にあきれたりです。

へんてこりんな、わらんじの泥洗いがすつかりすむと、寝太郎は、ここに顔です。すぐに、寝太郎は、「そろーっと、そろーっと」といいながら、百姓衆に、桶の上水をすてさせました。水がだんだんなくなつて、桶の底にたまつたものが見えたと

き、すつとんきような声で、だれかが叫びました。「うわッ、金じゃ、金じゃ、金の砂じゃ」八つの大桶の底という底に、ぴかぴか光る山盛りの金の砂を見て、だれもかれもが、思わずかたずをのんで、驚きの嘆声をもたりました。それからあとの、村じゅうの大騒ぎは、ご想像にまかせましょう。

ともかく、寝太郎といっしょに千石船に乗った舢舨たちが、「寝太郎め、佐渡が島へ着くなり、新しいわらんじと古いわらんじを、ただで取りかえちやげる……と、鳥じゅうにふれ歩いて、仰山、ぼろわらんじを集めよつたが、やつと、そのわけがわかつたわ」と、村人にもらしたとき、はじめて、みんな、「寝太郎は、えらいやつちや」と、口をそろえていきました。

そのころ、佐渡が島の金山では、ひとにぎりの土でも、島から外へ持ち出すことを、きびしく禁じていたのです。だから、寝太郎は、三年三月だれにもしれず、寝て思案したのでした。

さてさて、寝太郎は、こうして儲けたお金で、厚狭川をせきとめ、大

寝太郎人形

故 井口方夫 作



昭和8年から、竹材、素材人形、祢梨古(独自で造り出した粘土)などの創作人形の活動に入る。その後も数多くの創作的な作品を発表した。また、昭和51年から数年間、工芸作家である故吉賀大層に師事し、民芸作家としての研究も広域にわたる。円熟味のある作品となっている。



寝太郎人形

「寝太郎人形」は故井口方夫さんが手掛けた創作民芸品「寝太郎」をモデルに制作され、井口さんの人形が木製だったのに対し、加納さんの人形はすす竹を使って制作されており、竹の光沢や竹の持つ独特の風合いが特徴。

おまつりカレンダー	
<p>ねたろうの里 おひなさまめぐり</p> <p>期間 3月上旬～下旬 場所/厚狭駅前商店街一帯</p>	<p>寝太郎祭り</p> <p>日時 4月29日 場所/厚狭駅前商店街一帯</p>
<p>殖生潮干狩大会</p> <p>日時 5月～6月 場所/殖生漁港東側沖</p>	<p>ねたろうの里 ほたる祭り</p> <p>日時 6月上旬 場所/寝太郎公園ゆめ広場</p>
<p>厚狭花火大会 厚狭天神夏まつり</p> <p>日時 7月25日 場所/厚狭駅前商店街一帯、厚狭川河畔</p>	<p>殖生ぎおんふるさと祭り</p> <p>期間 7月下旬～8月上旬 場所/糸根神社周辺</p>
<p>お祝い夢花火</p> <p>日時 10月中旬 場所/殖生漁港</p>	<p>厚狭秋まつり 厚狭天神秋まつり</p> <p>日時 11月上旬 場所/厚狭駅前商店街一帯</p>

お問い合わせ

山陽商工会議所

〒757-0001 山口県山陽小野田市大字鴨庄101番地の29
TEL0836-73-2525 FAX0836-73-2526
URL http://www.sanyocci.sakura.ne.jp
地域総合活性化事業(県) H28.3

山陽小野田市内には
ゴルフ場が6場



厚狭ゴルフ倶楽部
山陽小野田市津布田
TEL0836-73-1881



山陽グリーンゴルフコース
山陽小野田市郡
TEL0836-73-1551



朝陽カントリークラブ
山陽小野田市郡
TEL0836-72-0659



山陽国際ゴルフクラブ
山陽小野田市福田
TEL0836-76-2031



プレジデントカントリー倶楽部山陽
山陽小野田市山野井東
TEL0836-72-1611



若山ゴルフクラブ
山陽小野田市郡
TEL0836-74-8111